

座談会  
「地域の経済情勢」



(司会)

木村 佳子 (株式・経済評論家)

(出席者)

渥美 恭弘 (北海道財務局長)

片山 一夫 (東北財務局長)

厚木 進 (関東財務局長)

藺田 俊和 (北陸財務局長)

山崎 穰一 (東海財務局長)

森川 卓也 (近畿財務局長)

枝廣 直幹 (中国財務局長)

河野 邦明 (四国財務局長)

水野 哲昭 (九州財務局長)

上野 善晴 (福岡財務支局長)

[世界同時不況と非正規雇用の増加]

○司会(木村) まず、最近の経済の動きは非常に大きなものですので、ここ数年の動きを伺ってまいりたいと思います。

関東の厚木局長からいかがでしょうか。

○厚木関東財務局長 2006年7月から東海財

務局長を1年間務めまして、2006年10月の財務局長会議では、東海局の管内経済情勢報告として、総括判断を「従来より引き続き回復している」から「総じて拡大基調にある」と上方修正しました。生産活動においては、輸送用機械の自動車関連とかオートバイの輸出が好調なこと、或いは電気機械とか一般機械でも引き続き



(司会) 木村氏



厚木関東財務局長

需要が旺盛であることから、ちょうど8月の東海3県の鉱工業生産指数が対前年同月比 15.5% という状況でした。

その後、1月の財務局長会議においても「総じて拡大基調にある」という総括判断を維持しまして、その当時、いろんな財界のトップの方にお会いしたときに、景気の動向については総じて強気の見方をする方が多く、少なくとも大きく崩れることはないという見方がコンセンサスになっていたのです。

その理由として、販売のグローバル化、地域別の分散が進展していて、仮に国内、或いは北米の景気が悪くなくても、ほかの地域でカバーされると言われた方がいらっしゃいました。管内の主要な業種にも言えるのではないかと調べてみたところ、確かに海外売上比率が高まっていて、かつ各地域別の分散が広がっていて、国内が低下する一方で、欧州、アジアの割合が上昇している。そういう状況にあったので、販売のグローバル化、リスク分散の進展というのは、世界同時不況のようなことが起こらない限り、各地域の景気変動等に左右されにくいものとなる。それだけ安定的な要因になるんじゃないかというようなことを報告しておりましたが、そういう世界同時不況のようなことが実際起こっ

てみると、それが必ずしも安定的な要因とは言えなかったということで、反省しているところです。

次に、4月の財務局長会議でも総括判断を「総じて拡大基調にある」と維持しましたが、ちょうど名古屋駅前の超高層ビルのミッドランドスクエアがオープンしまして、それが好調で消費の判断も「底堅い動きから緩やかに回復している」と上方修正をしている状況でした。

ただ、そのときに、いわゆる非正規雇用の割合が増えているのではないかとということが話題になっていました。私が実際に訪問した製造現場の感じでは、大体40~50%は臨時従業員という非正規の方で、多いところだと75%ぐらいが非正規の方が占めているような状況でした。

当時は、世界における市場化、グローバル化の進展がある以上、ある程度そういうものに対抗していくためにはやむを得ない、或いは、確かに生産が急激に増大している状況においては、なかなか正規雇用には踏み切れないこともあるのかなど。一方で、その当時から、そういうことだと物づくりの強みを弱めてしまうのではないかという話があって、経営陣のトップの方々は「もっと正規の割合を高めるべきじゃないか」という話もありました。実際に今回のよう

な世界同時不況が起こって、急激な生産水準の変化が起こってしまうと、非正規雇用の割合が急激に高まっていることが、経済全般にどうい  
う影響を及ぼすのかということについて、もう  
少し深めた分析をしていけばよかったかなと反  
省をしております。

○**司会** グローバル化が進展するに従って、  
非正規雇用の方たちを多くしたことが、世界同  
時不況に悪影響を与えたということでしょうか。

○**厚木関東財務局長** 経済変動のスピードを  
速めてしまったところはあると思います。

## [リーマンショック前後の地域経済]

○**司会** 近畿の森川局長は2007年に東海財務  
局、その後、近畿財務局にいらっしゃるとい  
うことで、まさにサブプライムローン問題で揺れ  
た時期に近畿圏にいらっしゃったわけですけれ  
ども、地域経済の変化をどのように感じられて  
いますか。

○**森川近畿財務局長** 2007年の夏に名古屋に  
着任しまして、その頃はまさに自動車産業を中  
心に絶好調でありました。

ある方に聞くと「自動車産業は永遠です」と  
言われて、すごいなと思っていましたら、サブ  
プライムローン問題が起こりました。やはり自  
動車産業をはじめ、東海は北米依存型だった  
ので影響を受けたのだと思いますけれども、2008  
年になってから更に悪くなりました。私が近畿  
局に移った2008年の夏にはまだそれほどでも  
なかったのですが、その後はかなり悪くなった  
と聞いています。

近畿に移ってからは、それまでは東海より悪  
かったけれども、それほど暗い感じはありませ  
んでした。というのは、恐らく近畿が北米依存  
というよりはアジア依存だったこと、それと、



森川近畿財務局長

当時、大阪湾はパネルベイと言われ、薄型テレ  
ビとか太陽光パネルの工場の増設計画がある景  
気のいい時期だったので、それほど悪くないな  
と思っていました。

そうしたら、秋にリーマンショックが起こり、  
それからつるべ落としのような、恐らく東海ほ  
どはひどくなかったと思いますけれども、近畿  
もかなり打撃を受けて、欧米の需要がダウンと  
落ち、更には中国も落ちてしまったので、輸出  
依存型だった近畿経済はそれで影響を受けたと  
いう面が大きかったと思います。

2009年の春になってから徐々に回復してき  
て、これは日本や中国の経済対策、具体的には  
エコポイントとかエコカー、或いは中国の家電  
下郷政策といったものが効いている、更に言え  
ば、東南アジアなどの景気回復の恩恵を受けて  
きたということかと思っています。しかし、まだ  
状況は悪く、大阪などは中小企業が多いので  
かなり回復が遅れていますし、何よりも最近気  
になっているのは失業率が高い、特に近畿が高  
くなっていますので注意していかないといいな  
と思っています。

## [九州経済と関西経済の関連性]

○**司会** 九州の水野局長は、近畿局で総務部



水野九州財務局長

長として経済状況を把握されていたと思いますけれども、当時の景気拡大期の状況と現在の九州財務局長としての印象、今までの動きなどについてお聞かせください。

○水野九州財務局長 私が入局した2005年から2007年当時の関西経済は、アジア向けの輸出の増加などを背景に生産が増え、設備投資も拡大するといったことで、長期的に景気が回復するという局面でした。

これに対し、九州局が管轄している南九州の4県の経済情勢は、厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きが見られるといった状況です。ただ、これは南九州だけではなく、日本国内全体が同じような状況にあると思います。

そもそも、南九州と近畿は経済規模が全然違いますし、経済構造も異なります。例えば南九州ですと、畜産をはじめとした農業のウエートが大きいです。関西は製造業のウエートが大きいです。

ただ、共通点もありまして、まず一つ目は、関西経済はアジアとの経済取引が活発ですが、九州もアジアに地理的に近くて、アジアへの輸出、特に農水産品等の輸出が最近増えてきてい

ます。具体的には、宮崎牛、鹿児島黒豚、熊本・大分の牛乳などの輸出が増えています。これは、経済発展を続けるアジア諸国において富裕層が増えてきたことや、食の安全で、品質の高い日本の製品を求めているためかと思います。

二つ目は、九州と関西は日本国内における太陽電池の主要な生産拠点となっています。九州の各工場が最近非常に能力増強の動きが活発化しています。特にこの3月に、宮崎県に国内最大規模の生産能力（90万キロワット）を持つ太陽電池の工場の建設計画が発表されました。この工場だけで2007年の日本全体の太陽電池の生産量に匹敵する規模であり、地元では工場関連の雇用が増えるということで、明るい話題となっています。

最後に、九州と関西を結ぶ九州新幹線が再来年3月に全線開通します。全線開通後は鹿児島から博多まで1時間20分、鹿児島から新大阪まで4時間という短い時間で結ばれますので、九州と関西がより近くなり、それぞれの経済が発展することを期待しております。

### 〔時間の経過と地域の違いによる経済の変化〕

○司会 北陸の藺田局長は、2005年から2年間は東北局、2007年は東海局で総務部長を経験されていたということですので、景気拡大期と、サブプライムローン問題に発する様々な世界同時不況の影響など、数年の動きを教えてくださいいただけますか。

○藺田北陸財務局長 東北地方は、どちらかというと日本の経済を後から追いかけるような地域ですので、当時、非常に日本の景気が拡大していると言われた時期でも、いま一歩動きが鈍かったという印象です。産業基盤もまだ脆弱なものがありますし、広い地域ですので、東北の中でも南部と北部の経済格差のようなものが相当ありますし、その中で、ほんの少しの経済



蘆田北陸財務局長

に対するいい状況が見えれば、緩やかな上昇だとか、或いは持ち直しの動きとかと、比較的狭い範囲で物事を考えるのが精いっぱい時期でした。

その後、2007年に東海財務局に赴任しましたが、まだ「拡大基調にある」という非常に華々しい状況でした。そのとき、岐阜県の多治見だったでしょうか、最高気温の記録を更新した年でもあり、まさに東海地区は燃えているなという雰囲気の時節でしたけれども、東北から行きますと本当に状況が一変するぐらいの感じで、時間の経過よりも、むしろ地域の違いによる経済の変化の大きさを感じました。

その後、東海地区は、2007年末あたりから少しずついろんな統計で下がり基調の部分が見られ、2008年に入ってから拡大基調が緩やかだとか、若干下り的な印象を与えるような状況が見えてきました。その後、7月に東京に戻りましたので、ちょうどリーマンショックの頃は財務局の現場を離れましたが、今年の7月に北陸財務局に行き、その間のギャップの大きさ、或いはいろんな数字を見ても相当に低い数値になっていまして、非常に驚いております。

北陸は、もともと製造業と言われる分野が発達・充実していて、その製造業を中心として経

済が成り立っている地域です。製造業が不振ということは、地域の経済に非常に大きな影響を与えている状況ですが、その中で一つだけ明るい話題があるとすれば、いわゆる化学、その中でも薬の分野です。もともと経済情勢に余り左右されない産業ですし、併せていろんな企業の効率化といったことを踏まえて、今はどんどん富山に薬の現場が集積していますので、北陸の中では非常に明るい話題として捉えています。

### [地域の実情を踏まえたきめ細かな対策が大事]

○渥美北海道財務局長 リーマンショック後の状況について少し変わったことを言いたいと思います。私はこの7月に東京から札幌に転勤しましたが、場所によって景気の見え方と違いますか、雰囲気、風景が大分違うことを痛感しています。

東京でいろいろなニュースに接していると、去年9月のリーマンショックを機に製造業を中心にドーンと落ちて大変でしたが、最近ようやく戻りつつあるというイメージが、コンセンサスといいますか、常識になっていますけれども、北海道の場合は大分違ってきます。

北海道は、もともとバブル崩壊以降ずっと低迷した状態が続いていて、前回の戦後最長と言われる景気回復期にもほとんど実感もなくて、ずっと低迷していました。多分、全国の中で景気の絶対的水準で見ても1番低い地域でした。そこにリーマンショックが起きましたけれども、幸いにといいますか、北海道は製造業のウエートが非常に小さく、8%ほどしかないし、特に輸出製造業はほとんどありません。そういう特異な産業構造ですから、あまりリーマンショックの影響も受けていません。勿論、波及的に、間接的にマイナスはありましたけれども、落ち込み方は東海や近畿に比べて小さかったので、「地域格差」が大分縮まったと感じました。恐らく、今後の回復に当たっても、その回復の波



渥美北海道財務局長



山崎東海財務局長

にもそれほどついていけなくて、乗り遅れていくのかなという心配もありますが、申し上げたように、北海道は特別かもしれませんが、リーマンショックといっても、それほどの落ち込みというのではないということです。

何が言いたいかという、金融政策とか財政政策などの政府の景気対策を打つ際には、どうしても全国一元的なものになりがちですが、東京からの視点だけではなく、各地方の実情を踏まえたきめ細かな対策が大事ということです。

○**司会** 私も色々と仕事で各地を回らせていただきますが、輸出や内需に対応する県もあれば、農作物が豊かで、漁業も盛んなところは、金銭的な規模は小さいけれども、何か都市部とは違った豊かさがある印象を受けます。

皆様のご意見では、東海、近畿、関東の地域は大きな動きがあったが、他の地域では変動が小さかったという印象を受けました。

### [持ち直してきている企業と厳しい企業]

○**司会** さて、東海の山崎局長、足元の経済状況を教えていただけますでしょうか。

○**山崎東海財務局長** 景気はやっぱり厳しい状況にあるということは否めないと思います。ただ、一部に緩やかながら持ち直しの動きがあるということだろうと思っています。

まず、持ち直しの動きから申し上げますと、生産は、特に東海地域は自動車のウエートが大きいですから、在庫調整が進んで、生産自体は徐々に上がってきていると思います。一方で、厳しい状況にあるのは、これは全国そうだと思いますけれども、雇用情勢です。まだ手放して楽観できるような状況ではないだろうと思っています。

一つ衝撃的なことを申し上げますと、来年高校を卒業する高校生の9月30日現在での内定率が55.7%、去年に比べて12ポイントぐらい落ちています。下請企業、町工場にヒアリングに行きましたところ、高校生を2人内定したことについて「大変な決断をした。随分考えたけれども、大変良いことをした。」と、特別なことをしたといったお話を伺いました。

○**司会** 雇用創造を成し得た重みですね。

○**山崎東海財務局長** そういう感じで受け取られていると。景気の良いときであれば、高校

生を雇うことはごく当たり前のことだったと思いますが、それがこういった状況になっているというのは、少し驚きを感じました。

生産の持ち直しについては、この地方で一番大きな企業のトヨタの例で言いますと、生産台数でピークで一日当たり18,000台ぐらいあったものが、1万台を切って八千数百台になったと。それが回復し今現在は15,000台ぐらいで、一見持ち直しているように見えますが、問題は、ピークに合わせて設備投資をしているわけで、持ち直してきているといっても、これで景気がよくなっているという感じでもないということです。

しかも、それはエコカーを中心とした特定の車種です。そうすると、トヨタとか大手企業は若干持ち直してきていますが、下請のレベルでは、その車種の部品を作っている企業は良いが、作っていないところはそうでもないということです。それから、設備投資関係は難しいとか、まだそういった状況にあるというのが正直な実感ですね。

例えば、車の部品は車種ごとに違いますので、補助金の対象になっているプリウスなどの部品を作っている下請けは結構持ち直しているが、補助金の対象にならないような他の車種の部品を作っているところはまずい。銀行は企業の状況を知るために、まず、「あなたの会社はプリウスを作っていますか」と聞くそうです。要するに持ち直してきている面と、やはり厳しい部分と、その両方があると思っています。

更に問題なのは、例えば尾張一宮、岐阜に繊維産業がありますが、もともと問題を抱えている上に、今回のショックの影響を更に受けているわけで、今後の対応には難しい問題があるのだろうと考えています。

○**司会** 先ほど、宮崎は太陽電池関係の設備投資が盛んだと伺いましたが、プリウス効果といますか、一つの伸びていく産業に関わって

いる企業は良いけれども、まだ全体的な動きとしては弱いというご見解ですね。

## 〔高速道路の割安効果と観光事業の振興〕

○**司会** 次に、四国の河野局長に伺いたいと思います。香川県などは、有効求人倍率や地域経済の面など、いかがですか。

○**河野四国財務局長** やはり雇用情勢が急速に悪化しており、製造業の求人の伸びが非常に低調で、高校生の内定率も低く、もう少し悪くなるだろうと考えています。

厳しい基調の中で明るいことも言わせていただくと、今回の経済対策の中では高速道路の料金の引下げがありました。その効果を大きく受けている地域の一つが四国だと思っています。本四架橋という本州と四国を繋ぐ三つの橋があります。広島尾道から愛媛の今治、岡山の児島から香川の坂出、それと兵庫の明石から徳島の鳴門の3ルートです。高速道路料金と本四架橋通行料金の引下げの二重の割安効果があり、例えば、東京から高松に車で、今までは片道19,200円でしたが、土日・祝日は4,950円です。大阪からは9,300円が3,000円、福岡からは13,650円が2,000円です。大きな割安効果から、土日の本四架橋の通行台数、或いは四国の高速道路の通行台数は、前年の約1.3倍になり、ゴールデンウィークやシルバーウィークには前年の約3倍に増えています。地域の産業や生活へ様々な影響を及ぼしていくと思います。

香川県では、うどん屋さんに行列ができ、人気店だと2~3時間は並ぶ。お客さんの整理のために警備員を雇う、余りに多過ぎて近所に迷惑をかけるので連休は休むという店もあります。四国は88カ所の札所巡りが有名ですが、うどん88カ所巡りとか、色々な形でチャンスが地場産業で活かそうという動きがあります。

四国が一つにまとまって四国全体の地域力で、



河野四国財務局長

国内のみならず海外の方々に魅力を伝えようという取組もあります。今年、各県や経済界により四国ツーリズム創造機構が設立されました。実は四国は、他の地域と比べて訪問者の宿泊日数が一番短い地域です。今年の秋から来年にかけて「ウェルかめ」、「坂の上の雲」、「龍馬伝」という四国を舞台にしたドラマが始まるので、情報発信の絶好のチャンスです。

もう一つ申し上げますと、瀬戸内海の直島に地中美術館というのがあります、まさに名前のとおり、外に建物がなく地中に美術館が造られています。海外のトラベラーズ向け出版物で世界の七不思議に選ばれており、外国人のバックパッカーも沢山来ています。瀬戸内海の島々の家屋、田や畑などの自然や文化を活かして、芸術と融合させた地域作りが行われており、来年、瀬戸内国際芸術祭が開かれます。

### 【日本一のお米「ゆめぴりか」】

○**司会** 地域の特性を活かすという流れで、北海道の渥美局長、北海道は農業王国ということで様々な取組みがあると思いますけれども、その辺の状況を伺いたいと思います。

○**渥美北海道財務局長** 基本的に北海道も低

迷っており、暗い話ばかり聞きますが、「景気は気から」というように、人々の気持ちが暗くなると、財布の紐が固くなって本当に景気が悪くなりますので、そういった中で元気を出さなければいけない。ということで、なるべく明るい話題を探して、それを強調して地元で発信するようにしています。これは非常に大事なことだと思います。そういった意味で「ゆめぴりか」のことをご紹介します。

北海道はもともと米が不味く、「猫またぎ米」、「やっかい道米」とか言われていた時代がありました。が、どんどん美味しい米ができるようになり、今年、遂に日本一のお米、新潟の方は反論があると思いますが、少なくとも北海道の人はそう自慢しております、この日本一のお米「ゆめぴりか」ができました。「ぴりか」とはアイヌ語で「美しい」という意味なので、「美しい夢」という意味になります。そういう名前的高级ブランド米のエースが10月に店頭デビューしました。食味試験では魚沼産の「コシヒカリ」などを抜いてトップに立ったという結果も出ています。

○**司会** 東京の北海道館などでも売られるかもしれないですね。

○**渥美北海道財務局長** それが実は、当初収穫量を15,000トンと予定していましたが、今年は残念ながら、夏に長雨・低温・日照不足と



いう三つの天候不順が重なり、農作物が不作になりまして、「ゆめぴりか」も例外ではなく、収穫量が大幅落ちました。そしてさらに厳格な品質管理をして、タンパク質成分が6.8%以下でない「ゆめぴりか」として販売しないというルールをホクレン（ホクレン農業協同組合連合会）が決めたことから、結局、販売量としては800トンと、極めて少量になってしまいました。従って、10月10日に店頭販売を始めましたけれども、基本的に北海道でしか手に入りませんでしたし、ほとんど即日完売でしたので、今は北海道でも手に入りません。

唯一チャンスがあるのは、今、ANAの国際線ファーストクラスの機内食で出していますので、もし機会がございましたら、そちらで御試食いただければ有難いと思います。残念ながら、今年は本当に夢に終わったみたいなお話になってしまったわけですが、来年は沢山収穫して、本格デビューすることを願っています。

地元の農家等は遂に日本一になったということで、来年に向けて頑張るぞという状況になっています。

○**司会** 駅弁などでも食べられるようになればありがたいですね（笑）。

### [3世代同居と新たな風力発電]

○**司会** それでは、東北の片山局長、現在の日本が抱える問題として、経済成長、景気回復は勿論ですが、少子・高齢化や地球温暖化も大きな問題でございます。これらに対する今後の取組み等についてお願いいたします。

○**片山東北財務局長** 少子・高齢化時代の知恵ということで、特色ある地域としては山形県が挙げられると思っています。山形県も東北の一つですから、高齢化が進んでいます。高齢化率が25%を超えています。また、高齢者のいる世帯が5割を超えているという状況ですけれ



片山東北財務局長

ども、それを逆手にとってむしろ知恵を働かせている部分があります。

それは、3世代同居世帯の割合が24.9%と、全国平均の8.6%よりはるかに高いことです。一方で、共働きの世帯の割合がこれまた非常に高く、全国平均は25%ぐらいですが、山形県は4割程度になっています。これは、子どもたちの面倒は両親が見るから、奥さんも働いてきなさいということで、3世代同居により仕事と子育ての両立が可能になっていることが大きな要因かと思っています。

3世代同居が進んでいる理由を解明するのは難しいところですが、よく皆さんが言うのは山形県の気質、いわゆる「おしん」の世界です。非常に我慢強いと言われていて、世代間の価値を理解し合って我慢するというものです。したがって、仕事と子育ての両立が可能なるものから、出生率も1.42と高くなっているのだと思います。

更に、3世代同居のもう一つの効果としては、セーフティーネットとしての機能があげられます。当然ダブルインカムです。また、第一次産業の従事者の割合が10%を超えていまして、兼業による農業所得が入ってきます。更に、老人の方は一定年齢に達すれば年金も入りますの

で、1世帯全体としての所得水準、或いは貯蓄水準が非常に高くなっています。山形県は、3世代同居世帯で見ると平均世帯人数 5.4 人ですので、世帯全体の合計所得は 1,300 万円を超えると試算され、東京よりもはるかに高い数字になっていますし、生活保護率は、全国で下から 6 番目に低くなっています。

このように 3 世代同居は、農業基盤がベースに成り立っているとも考えられ、農業生産力の活用、或いは農業地域の活性化が重要ではないかと言えるのではないかと思います。

○**司会** 3 世代で暮らしますと、介護問題の軽減や教育の問題などにも良い影響を及ぼすのではないのでしょうか。

○**片山東北財務局長** 地球温暖化については、秋田県潟上市の中小企業での新たな風力発電機の実験機をご紹介します。一般の風力発電機はプロペラで、直径が 60m、大きなものは 100m と非常に大きく、発電量はそれなりにありますが、一方で風が強くないとだめで安定性の問題があります。およそ風速 10 メートル以上が適切な風と言われており騒音問題もあります。また、電力会社に売ることを前提にした、発電サイドに立った施設です。

今回、潟上市で作ろうとしているのは、スパイラルマグナス風車といって、羽根それ自体が回転する円筒で、その円筒に螺旋型（スパイラル）のフィンがついています。これを利用すると 3~6 メートルの緩い風でも発電ができて安定性があり、しかも、通常のプロペラの風力発電機の 4 分の 1 ほどの回転数でパワーが発揮でき、静かで安全性も高いので、一般企業或いは一般家庭に設置することが可能で、いわゆる需要者サイドに設置することを前提とした風力発電機です。

今、太陽光パネルが人気になっていますが、コスト面でも太陽光パネルに十分勝てるものを

作りつつあるということです。

○**司会** CO<sub>2</sub> 削減の問題に寄与しそうな状況ですね。

[情報の受信発信による地域貢献]

○**司会** もう一度、近畿の森川局長に伺いたいと思います。地域貢献といった観点からの取組みを御紹介いただけますでしょうか。

○**森川近畿財務局長** 1 年目は、経済界の声を聞いて経済情勢や経済界の声を東京に伝えるということでやってきましたが、2 年目になり、郡部も含めた地域の声を伝えていこうと思って、地方公共団体ヒアリングを始めました。

これは私だけでなく幹部と一緒にやっており、聞いてみると企業とは違う声の色々あって、地方に行けば、やはり救急や災害の時に地方にも道路は必要ですと言われます。或いは、大阪の周辺だと生活保護世帯が増えて大変ですといった色々な生の声が聞けますので、そういった声を本省に伝えていく。一方で、国の財政事情は非常に厳しいですから、そういった国の状況や政策を地方に伝えていくことが大事ではないかと思っています。

近畿においては、関東と関西というのは車の両輪だと思っているわけですが、必ずしも東京はそうは思っていないところもあり、そのコミュニケーションギャップ、或いは大阪とその周りとのコミュニケーションギャップをどう縮めていくのか。それをうまく繋いでいくのが大事だと思っているところです。

また、最近では、いわゆる貸し渋り対策とか、中小企業金融、或いは利用者保護の視点に立った金融行政も求められており、そういった点でも財務局の地域貢献の余地があると思っています。

○**司会** 経済の表立った部分ではなくて、地

域の実態に即した情報を本省に上げていくというのも非常に重要な役目ですね。

### [広島駅新幹線口のまちづくり]

○**司会** それでは、中国の枝廣局長、広島駅前  
のまちづくりについて取り組まれているとい  
うことなので、教えていただけますでしょうか。

○**枝廣中国財務局長** 具体的な説明の前に一  
言お話をしたいと思います。実は、財務局で仕  
事をするのは初めてなのですが、着任早々地域  
のリーダーの方々とお会いして、皆様方から財  
務局という組織は随分信頼していただいている  
と実感しました。今年で発足 60 年ですが、財  
務局という財務行政の第一線で働いてこられた  
諸先輩のこれまでの努力の積み重ねを実感した  
のが、最初の印象でした。

仕事をするに当たっての抱負として職員にお  
願いしたのは、積極的に地域貢献に努めよう  
じゃないかということです。それも、地域のプ  
レイヤーの 1 人として汗を一緒にかくような取  
組みをしようと呼びかけました。そして、私自  
身も先頭に立って実践をしていこうと歩み始め  
ました。

そのような中で、私の想いと重なる事案がこ  
れから申し上げる新幹線口のまちづくりの取組  
みです。(概要図は、33 ページ参照)

広島駅で降りた方々の殆どは原爆資料館、原  
爆ドーム、或いはマツダスタジアムの方向に流  
れます。その反対側に全く開発の波から取り残  
されているエリアがあり、ここに 6.6 ヘクタール  
に及ぶ国有地があります。都心部に残された  
最後の一等地といわれている所です。その隣に  
は JR の支社、JR の病院。これらを一体的にま  
ちづくりのために活用しようと考えたわけです。  
ただ、関係者の間で利害が錯綜し、各々の考え  
る優先順位も違うものですから、なかなかうまく  
事は進みませんでした。

我々がやっている国有財産業務も、国有財産



枝廣中国財務局長

を早期に売却して財政貢献をするのが基本です  
が、売却を優先する余り、無秩序な開発を招い  
ては地域に貢献することもできません。そこで、  
まちづくり協議会を中国財務局が主導して立ち  
上げ、我々が一体的な整備の図を描いて地域に  
提示をし、ここまで引っ張ってきています。

今、これまでの取組みが徐々に具体化しよう  
としています。このような取組みを単発に終わ  
らせず、第二、第三の事案を育てていきたいと  
思っています。また、中国地方だけでなく、各  
局においてもこうした事例を参考にしていだけ  
れば大変有難いと思っています。

我々が考えているポイントは大きく三つあり  
ます。まず、国有地が地域の潜在的なニーズに  
合致するものかどうか。そして、地域の考える  
国有地の利活用計画が実現可能なものかどうか。  
また、実現可能なものとするために我々の持つ  
ノウハウを役立てることはできないか。そして、  
受身ではなく攻めの行政を目指して、国有地の  
付加価値を高めた上で財政貢献に繋がられない  
かということです。

定員事情が厳しい状況にあって、少ない陣容  
でも知恵を出し汗をかけば地域に貢献できると  
いった事例になることを期待しています。

[プラスαの新たな地域貢献]

○**司会** 福岡の上野支局長、地域活性化のための取組みについて、「チャリティー歌舞伎」等ご紹介いただけますでしょうか。

○**上野福岡財務支局長** 具体的な話の前に、地域貢献についての感想を申し上げます。

財務局勤務は初めてで、実際に財務局に赴任して、非常に間口が広くていろいろなことを担当しており、やりがいのある職場であると感じています。もう一つは、国の出先機関の中でも一番注目されている代表的な存在であると思っています。

地域貢献には二つあると思っており、一つは従来の業務を活用した地域貢献です。例えば、国有財産関係の業務で大口の跡地の処分に当たって地域の皆さんの声を聞くこと。私どもは自衛隊の跡地が小倉にあり、地域の活性化のために北九州市が活用しようと考えていますので、財務局と市と県と一緒に検討しています。

また、地方公共団体、特に零細な自治体に対して低金利で長期の資金を融資することも大事な仕事だと思っています。管内には大規模離島や旧産炭地域があり、極めて財政が厳しい状況にあります。こうしたところに、低利で固定の資金を融資するとか、高い金利の貸付金を繰上償還していただくことで、地域の財政を支えているという面があると思います。

もう一つの地域貢献が、従来の業務による地域貢献にプラスアルファの新たな地域貢献、地域活性化に向けた取組みです。

第1は、フォーマルなものとして、地域の企業、商工団体、金融機関或いは自治体が直面している課題を職員が聞いて回ろうというものです。財務局限りでお答えできるものは限られていますが、他の役所の話も含めて何でも聞きましょう、何でも繋がりますという考え方でいこうと思っています。

第2は、インフォーマルな地域貢献というこ



上野福岡財務支局長

とで、「福岡チャリティー歌舞伎」の話をご披露します。「福岡チャリティー歌舞伎」は去年24年振りに再開しまして、「昨年来、経済環境は厳しい状況にありますが、こうした時代だからこそ、この難局を乗り越え明日への活力に繋げるため、更なる地域各界の交流と結束が求められております」というキャッチフレーズで再興しました。

呼びかけ人は、九経連の会長、商工会議所の会頭、市長などが中心で、口上とか踊り、勧進帳など色々ありますが、私が出演させていただいたのは、男伊達と女伊達が自己PRをするという「弥栄芝居賑」です。

○**司会** 地域の地元の名士の方たちが白塗りして出演されるのですね。

○**上野福岡財務支局長** 私は女伊達をやらされました。出演には相当躊躇をしましたが、地域の皆さんのためにお役にたてるならと、お受けいたしました。皆さん結構熱心で、私も3度ほど休日に稽古に行きました。

○**司会** そういうところで、深くてしかも本質的なコミュニケーションもとれるというわけ

ですね。

○**上野福岡財務支局長** 私の出しものには商工会議所の会頭を中心に、各界の有名人の方がいましたのでコミュニケーションを短時間で図ることができ、その後の業務でも役立ちました。この芝居に出た国の出先機関は私だけでしたので、財界の方々からは「よくぞ出ていただいた、さすが財務局だ。地方の出先機関の中心的存在だ。他の機関の方にも来年以降はぜひ出ていただきたい。」との声がありました。我々公務員としてできることには限界がありますが、プライベートな分野でも可能な限りこういった形で地域貢献を行うことで財務局の存在感をアピールでき、地元の皆様にもお役に立てると思いますので、一つのエピソードとして披露しました。

○**司会** ありがとうございます。今後も、様々なご活躍を期待させて頂きたいと存じます。

○**上野福岡財務支局長** 台詞もアドリブで自由に変えられますので、財務局の使命や存在意義をわかり易くPRできたと思います（笑）。

○**司会** では、地域活性化の一つの成功事例としてぜひ研究させていただきたいと思います。

まだまだ伺いたいところですが、最後に関東の厚木局長から一言いただけますでしょうか。

○**厚木関東財務局長** 本日は、木村先生に司会をしていただいたこともあって、各局長からは暗い話ばかりでなく、どちらかといえば各地域の明るい話題を中心とした非常に有意義な座談会であったと思います。

本年、財務局発足60周年を迎えたわけですが、今後とも、財務局が益々地域に必要な組織であると言われるように、我々も一層の努力を行うことが不可欠であると考えています。

○**司会** 今後も地域経済の発展と国民生活の充実に皆様のご活躍をお祈りいたしております。ありがとうございました。

（本座談会は、平成21年10月29日に行われました。）

